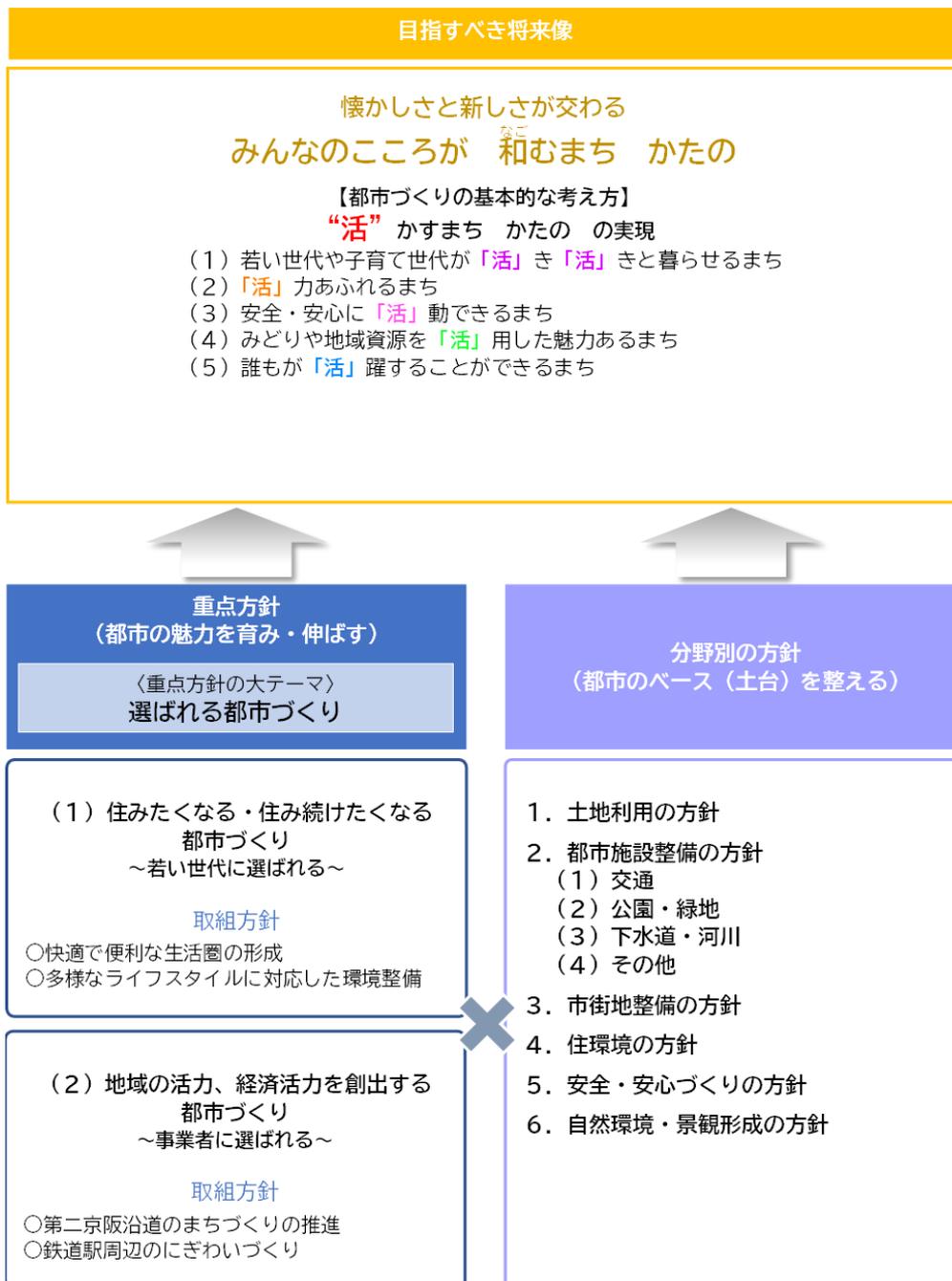


3. 立地適正化計画における基本方針

(1) 目指すべき将来像

都市計画マスタープランでは、都市の魅力を育み・伸ばす「重点方針」と都市のベース（土台）を整える「分野別の方針」を設定し、『“活” かすまち かたの』を都市づくりの基本的な考え方として、第5次交野市総合計画における まちの将来像『懐かしさと新しさが交わる みんなのところが 和むまち かたの』の実現を目指しています。

都市づくりの目標と重点方針、分野別の方針の関係
(都市計画マスタープランより)



(交野市都市計画マスタープランより)

「“活” かすまち かたの」の“活”には、若い人や子育て世代の人が生き活きと暮らすことができる、活力があふれる、安全・安心に活動できる、様々な地域資源を活用できる、活躍する人材を育てる、といった様々な意味がこめられています。そのため、“活”という言葉を変重要なキーワードとして、今後の本市の都市づくりの展開を進めています。



立地適正化計画においても、基本的にはこれら都市計画マスタープランの考え方は踏襲します。大阪都心部や京都方面への優れた交通アクセス性、みどり豊かな安全・安心な居住環境、自然に囲まれたレクリエーション環境といった点が他都市との違いを生みだす本市の特徴です。この特徴を活かしながら、都市計画マスタープランで重点方針として掲げている『(1)住みたくなる・住み続けたい都市づくり～若い世代に選ばれる』の実現を意識し、深化させる方向で基本方針を定める必要があります。

(2) まちづくりの方針

第2章で示した課題や(1)目指すべき将来像の考え方を踏まえ、立地適正化計画における基本方針を次のように設定しました。

方針① 拠点の役割に応じた機能の充実・強化

- それぞれの鉄道駅(交野市駅、河内磐船駅・河内森駅、私市駅、星田駅、郡津駅)周辺ごとの役割に応じた都市機能や生活利便機能の充実・強化を図ります。
- JR新駅の整備も検討されている寺・向井田地区では、その土地利用動向を見極めながら位置づけ等を検討します。

方針② 子育て層を軸に多様な世代が暮らしやすい居住環境づくり

- 若者やファミリー世帯などにとって魅力があり、住み続けたいくなる機能導入や生活空間の形成を図ります。
- 若くして住み始めた人たちが高齢になっても、安全・安心で快適に住み続けることができる居住環境の形成を図ります。

方針③ 安全・安心に暮らせる、災害に強い環境づくり

- インフラの適切な整備、維持・管理により市民の安全・安心で暮らしやすい住環境の形成を図ります。
- 自然に恵まれた都市環境を活かし、グリーンインフラ等を加味した災害に強い都市空間の形成を図ります。

方針④ 市民の移動手段の確保

- 市民*の重要な移動手段である公共交通の維持を図りつつ、交通利便性の充実に資する方策を検討します。
- 鉄道駅の交通結節機能の充実・強化を図りつつ、移動手段の多様化や連携について検討します。

* この計画において「市民」とは、市内に住み、学び又は働く人及び市内において事業又は活動を行う法人その他の団体をいう。

(3) 将来都市構造

都市計画マスタープランで示された将来都市構造を踏襲しつつ、拠点ごとの考え方を整理します。

① 軸

【生活交流軸】

- ・京阪交野線及び国道 168 号を、市民生活の移動や隣接市との連携の主軸となることから「生活交流軸」として位置づけます。
- ・市民生活の移動を支え、隣接する枚方市との広域的な連携を図ることで、生活利便性を高めます。

【広域交流軸】

- ・JR 学研都市線、第二京阪道路を、広域的な交流・連携の主軸となることから「広域交流軸」として位置づけます。
- ・第二京阪沿道の都市づくりの推進、商業・業務機能の充実を図り、都市のにぎわい・活力創出に努めます。

② 拠点

本市は京阪交野線、JR 学研都市線が南北、東西につながっており、高次都市機能の集積が認められる枚方市駅、京橋駅、松井山手駅へのアクセス性に優れています。

そのため、鉄道を軸とした沿線で都市機能の役割を分担、連携することが考えられることから、それらの駅を広域的な拠点駅と見なし、市内の各鉄道駅においては広域的な拠点駅の機能との分担・連携・補完関係を意識して拠点の考え方を整理します。

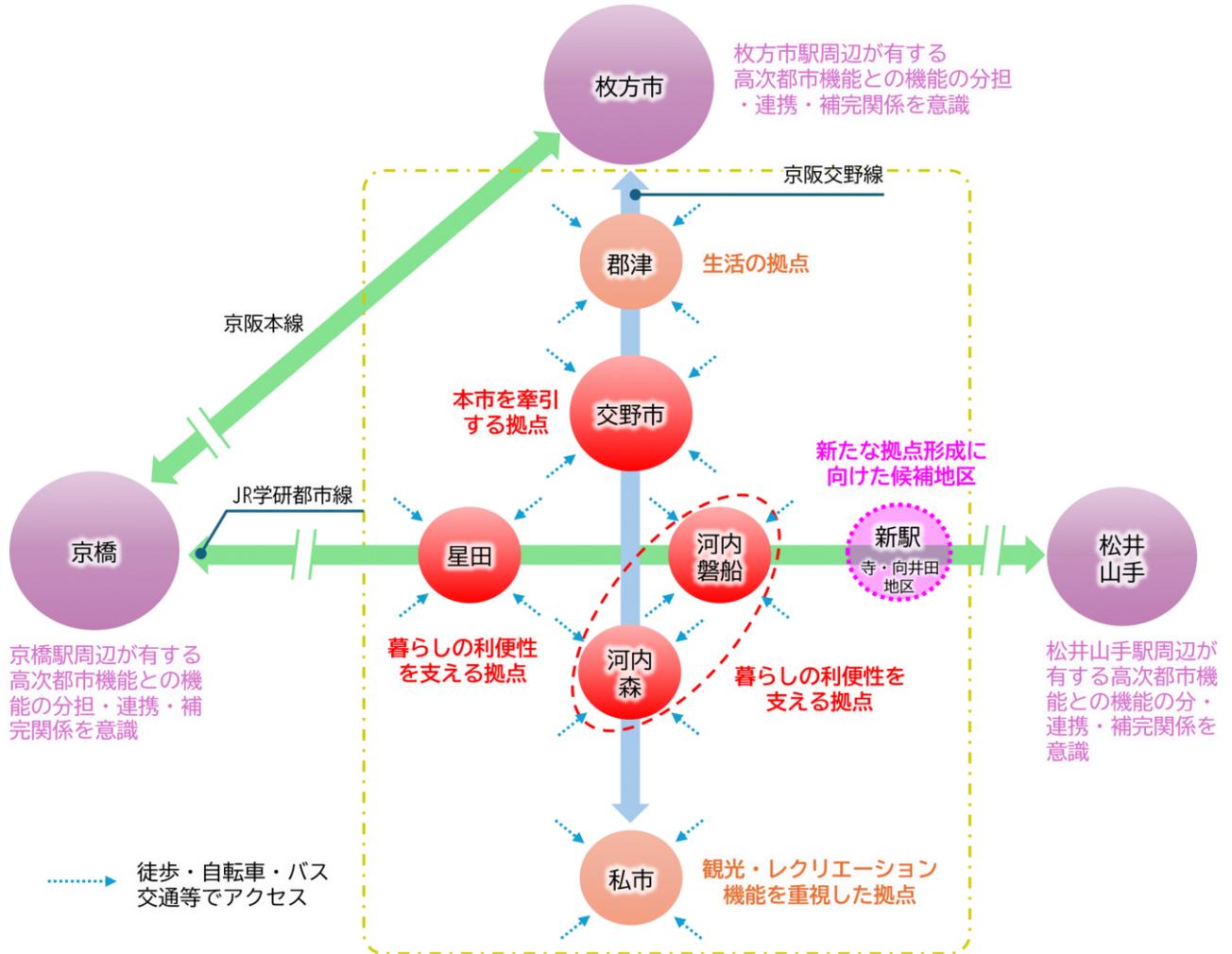
また、寺・向井田地区周辺は、新駅設置等も含む新市街地形成に向けた動きが認められることから、新たな拠点形成にむけた候補地区とします。

名称	概要
交野市駅周辺	交通結節点（鉄道・バス等）としての役割のほか、市役所や商業・業務施設が立地する本市の中心的な役割を担っていることから、本市を牽引する拠点とします。
星田駅周辺	交通結節点（鉄道・バス等）としての役割のほか、商業施設や医療施設等が立地する新市街地が形成されることから、新たな暮らしの利便性を支える拠点とします。
河内磐船駅・河内森駅周辺	交通結節点（鉄道・バス等）としての役割のほか、公共施設（ゆうゆうセンター）や商業施設等が立地する生活の中心としての役割を担っていることから、暮らしの利便性を支える拠点とします。
私市駅周辺	本市の観光スポット（府民の森等）を訪れる際の玄関口となることから、観光・レクリエーション機能を重視した拠点とします。
郡津駅周辺	地域医療の中核病院が立地し、駅前には市民の憩いの場（松塚公園）や国際的な文化交流の場が設けられていることから生活の拠点とします。
寺・向井田地区周辺	新駅設置等も含む新市街地形成に向けた動きが認められることから、新たな拠点形成にむけた候補地区とします。

本市は京阪交野線、JR 学研都市線が南北、東西につながっており、大阪市内へのアクセス性も優れています。

そのため、鉄道を軸とした沿線で都市機能の役割を分担、連携することが考えられることから、この特徴を活かした拠点ごとの役割分担の考え方を整理します。

鉄道沿線のまちづくりを考慮した拠点の役割分担の考え方



③ 区域

【自然区域】

- ・市域の約半分を占める山地部は、自然区域として位置づけます。
- ・山地部の緑は、保水や砂防、大気浄化などの機能を有し、市民の生活を守るとともに、豊かな緑の自然景観を形成していることから、災害防止の施策を講じながら、市民のやすらぎの空間、市民の心のふるさととして維持・保全を図ります。

【田園区域】

- ・平地部における市街化調整区域は、田園区域として位置づけます。
- ・無秩序な土地利用を抑制し、営農環境の保全や土地所有者の意向を踏まえた活用を図ります。
- ・第二京阪道路沿道の地域においては、広域的な交通利便性を活かし、周辺の住環境に配慮した土地利用を図ります。

【市街地区域】

- ・自然区域、田園区域以外の市街地を市街地区域として位置づけます。
- ・市街地区域では、安全で快適な住環境の維持・増進に努めつつ、旧集落においては、歴史的なまちなみを残し、景観を保全しながら地域にふさわしいまちづくりを検討します。
- ・工業地については良好な操業環境の確保、近隣の住環境との調和を図ります。

都市構造図

